

映像	内容
タイトル VTR	オープニングタイトル
スタジオ	<p>田村： お元気ですか！市民のみなさん。麒麟の田村裕です。</p> <p>藤井： 藤井未莉佳です。 10月に入って一気に涼しくなりましたね。</p> <p>田村： というか、ヤバイっすね。ホンマに今日から、TODAYから。</p> <p>藤井： そうですね。収録前も、ずっと「寒い、寒い」って。</p> <p>田村： 激寒やねんけど。 全然、関係ないんですけど、うちの下の娘が今2歳半なんですけど、僕だけなのかもしれないんですけど、「オンチン」ていうてくるんですよ。</p> <p>藤井： え…。</p> <p>田村： 「チンオンオンチンオンチン」て感じで甘えてくるんですよ。</p> <p>藤井： 可愛いですね。</p> <p>田村： めっちゃ可愛いんですけど、何を「オンチン」って呼んでるか分からないんですよ。</p> <p>藤井： 田村さん、そう呼ばれる心当たりってありますか？</p> <p>田村： 風呂入ったら指さして「オンチン」って言うてくるんですよ。</p>

藤井：

楽しいお年頃なんでしょうね。

田村：

たぶん、どこの小さい子でも通る時期なんでしょうけど。

藤井：

っていうか、この話、使えるんですかね？

田村：

え！使えないんですか？2歳の話ですよ。

藤井：

じゃあ、微笑ましい話題としてね。

田村：

そうですね。2歳の娘の話ですからね。

藤井：

今回の特集ですが、いろんな秋があると思いますが、  
秋にちなんだ内容をお送りします。

「レッツ・エンジョイ新スポーツ」と題して  
爽やか伊藤さとるさんがレポートしてくれました。  
どんな新スポーツでしょうか？

VTR

### レポーター顔出し

スポーツの秋がやってきたぞ～！ 爽やかエアKです！

さあ、伊藤さとの季節がやってきました。そうです！スポーツの秋です！

ということで今回は僕の本領発揮！新スポーツを紹介したいと思います。

まずはオリンピック競技にもなっているアレを紹介したいと思います。

レッツゴー！

### ナレーション

最初にご紹介するのは「スポーツクライミング」。

こちらでは室内でボルダリングやリードクライミングの体験や

練習ができるほか、日本初の超難関ウォールが設置されていて、

初心者から選手まで対応できる本格的な施設なんですよ。

伊藤：

こんにちは、よろしくお願いします。

店長：

こちらこそ、よろしくお願いします。

伊藤：

すごい施設ですね。ボルダリングの施設と聞いたんですけど、

ボルダリングって巷でよく聞くんですけど一体どういう競技なんですか？

店長：

ボルダリングというのはフリークライミングの一つなんですけど、

壁の高さがだいたい3～4mぐらいの比較的低い壁を体一つで

登って降りてくるという一番シンプルなクライミングになります。

伊藤：

大きなクライミングのカテゴリーの中の一つの競技ということですか？

店長：

そうです。

### ナレーション

皆さんがよく聞くボルダリングはクライミング競技の一種で、

決められたスタート地点からゴールまで地上に落ちることなく登る競技です。

ちなみにオリンピックではボルダリング、スピードクライミング、

リードクライミングの3種類の種目を戦います。

伊藤：  
この施設では何ができるんですか？

店長：  
ここでは、そのうちボルダリングとリードクライミングができます。

### ナレーション

まずはロープを使いながら登るリードクライミングに挑戦です。  
リードクライミングは、約15mの壁を予めセットされたカラビナにロープを通しながら登っていくクライミングの競技です。  
ロープを地面で確保するビレイヤーと2人1組で行います。  
今回は予め最上部に確保されたロープを使って初心者コースに挑戦です。

伊藤：  
どこからいきましょう？

店長：  
ええとですね、茶色の四角いテープが貼ってあるやつ。  
ちょっと離れてもらおうと全容が見えると思うんですけど。

伊藤：  
え～！めっちゃめっちゃ上まで！行けます？これ初心者？

店長：  
がんばったら登れる。

伊藤：  
ここがスタートですね

店長：  
ここに足がある。ここにも足がある。次、どこに持つところがあるか探して。

伊藤：  
ここや！ここや！

店長：  
そう。そうそう。そうです。

### ナレーション

ご覧の通り、全く初めての人でもスタッフが手足の位置を教えてくれるので思ったより簡単に登れるんですよ。

伊藤：  
先生、ちょっと怖くなってきた！

店長：  
今だいたい4分の1ぐらいです

伊藤：  
まだ4分の1！？

### ナレーション

緊張のあまり力みまくっていますが、手の力に頼りすぎないのが  
クライミングのコツなんだそう。

伊藤さん、ゴールまであと少しのところまでできました。

店長：  
両手で持って、左足で立ち上がってゴール。頑張れ！

伊藤：  
ああ～。あとちょっと！ゴールまで、あとちょっと！今見た？

### ナレーション

ゴールの石をつかむことができずに落下。ここはもちろんリトライです

店長：  
そうそうそう、両手で持って左足だけで立ち上がりながら取る！

伊藤：  
よっしゃ～！いけた～！ゆっくりおろしてください。意地悪してるでしょ？  
高いところで…。高けえ～！  
ちょっと先生、早く降ろしてください。ゆっくりゆっくりゆっくりです

店長  
いいですか？降ろしますね。

伊藤：  
先生～

店長：  
ばっちりじゃないですか。

伊藤：

ばっちりじゃないですよ。  
最後、上でわざと長いこと僕を宙づりにしてたでしょ？  
上めっちゃ怖かったですよ。

店長：

まあまあ高さあるでしょ？

伊藤：

めっちゃありますよ。  
途中から高さがあるから自分の判断ができなくなりますよね？

店長：

ちょっと怖いよね。なのでその怖さの中で正しい判断をくだして  
登っていくっていうのがクライミングの真髄！

伊藤：

なんでしょ？この気持ち??

店長：

防衛本能？死にたくない！

伊藤：

クライマーズ・ハイみたいな。

### ナレーション

続いて伊藤さんはロープを使わずに登る「ボルダリング」に挑戦させて  
もらいましたが、持ち前の運動神経で初心者コースを楽々クリア。  
さらなる難関を求めて店長と2階へやってきました。

店長：

じゃあ、最後はこれに挑戦してもらいます。

伊藤：

え！これですか！？

店長：

結構めずらしい壁です。世界でもこの規模なのはここだけかな？

伊藤：

なんでこんなん作ったんですか？

店長：  
すごいでしょ？

### ナレーション

壁の傾き180度。天井にぶら下がるように進むこのウォールは進行方向への視界がほとんどありません。  
店長さんにお手本を見せてもらって無謀な体験することに。

### ※1回目

店長：浮いたら、すぐに右手。

伊藤：(落ちる) はははは、ちょっと待って。悔しい。行けそうな気がする。

### ※2回目

伊藤：(落ちる) ははははは。

### ※5回目

店長：よしよし頑張れ

伊藤：(落ちる) 絶対無理、絶対無理。

### ナレーション

爽やか伊藤、撃沈！

店長：  
登るコースのことを「課題」っていうんですけど、課題っていうのは何回も練習して解いていくというのが、問題を解いていくのに近いのでそれがボルダリングといえはボルダリングですね。

伊藤：  
いや～、これは本当に心技体ですね。

店長：  
まさに！

### ナレーション

続いてやってきたのは大阪学院大学。  
こちらのとあるサークルで新スポーツをやっていると聞きつけてきたのですが…、そこにはずらっと並んだパソコンが！

伊藤：  
これは何をしてるんですか？

大学生：  
これは「eスポーツ」やっています。

### ナレーション

「eスポーツ」とはエレクトリック・スポーツの略で、コンピューターゲーム、ビデオゲームの対戦をスポーツと捉えたものなんです。

日本での認知度はいまいちですが、世界的には新スポーツとして最も注目を集めているんです。

「どこがスポーツやねん！」って思った方！

「eスポーツ」では ゲームは人間 対 コンピュータでははく1つのゲームをプレイヤー（人間）同士で戦う競技なんです。従来のスポーツと同じく、初心者が集まって開催される小さな大会から、世界大会まで開催されていて、オリンピックやパラリンピックの競技として採用が検討されているんです。

そして、その流れを受け、ここ大阪学院大学でも2018年に「eスポーツサークル」が設立されたんです。

伊藤：  
ってことは、ここでeスポーツの練習をしてるってことですよね？

大学生：  
はい。そうです。

伊藤：  
eスポーツって練習って何をやるの？

大学生：  
オンラインの人とマッチングをして試合を行なっています。

伊藤：  
実際に対戦相手とネット上で繋がってて、チームで練習しているわけや。  
個人個人でも家でできるわけやん？  
それが集まってきてみんなですることって何か違いがある？

大学生：  
実際、会って教えるのとネット上で教えるのって、会ってる方が伝わることもあるのでみんなですっています。

伊藤：

そうか。指示ができるから。

大学生：

そうですね。一体感もあったりするので。

伊藤：

一体感？

大学生：

勝った時とかにみんなと一緒にその場で盛り上がる。

伊藤：

ここで相手を倒した時に「うお～！」ってなるわけや！

大学生：

はい、そうです。

### ナレーション

サークルのみんながプレイしているのは、ゲーム内のキャラクターを操作し、仲間と協力しながら相手陣地にある拠点を破壊するパソコン専用のオンラインゲーム。リーダーを中心にメンバーそれぞれの特性に合わせた役割分担で5対5のチーム戦で戦います。

勝つためには操作技術だけでなく、戦略やチームワークが必要となります。そんなeスポーツのチーム戦で一役買おうと伊藤さんも助っ人参加！と言いたいところですが、ゲームの操作はおろか自分のキャラクターがなぜ動いているのかもわからない始末！難しい戦略以前の問題でした。

伊藤：

みんなみんなみんな来て！みんなみんな助けて！ああ助けて！  
助けて～。やばいやばいやばい。これ、ちょっと俺倒れてる…。

大学生：

死んでますね。

伊藤：

俺、死んでるの？ もう死んじゃった？

大学生：

はい。

伊藤：

楽しかったんだけどさあ、瞬時にいろんなことを考えなあかんし  
手が動かないから焦ってしまうよね？

大学生：

最初は誰でもそんなもんだと思います。

伊藤：

そう？ eスポーツってよく考えたら誰でもできるから、  
年齢関係なくできるスポーツだよ。

大学生：

そうなんですよね。実は外国のチームで60歳以上だけで構成された  
プロのチームがあるんですよ。

伊藤：

そうなんや！

実際のところ目標というのは、どういうところに置いているんですか？

大学生：

やっぱり全国大会。全国大会で優勝したいですね

伊藤：

すごいなあ～

### ナレーション

現在、eスポーツでは野球やサッカーといった実際のスポーツを題材にした  
「スポーツゲーム」や、格闘技などで対戦する「格闘技ゲーム」、  
射撃の操作をゲームの中心とする「シューティングゲーム」、  
思考やひらめきといったパズルの要素をゲーム性に取り入れた  
「パズルゲーム」など様々なジャンルで大会が開催されていて  
リアルスポーツを選ぶように、ゲームのジャンル、個人戦やチーム戦など  
自分にあった競技スタイルでプレイすることができるんです

伊藤：

なぜこのようなサークルができたのかというのが一番気になるのですが

顧問：

今回eスポーツというのが世界的にも脚光を浴びてきている  
ということで、じゃあやりたい学生がどれくらいいるのかということで  
声がけしてみましたら、昨年募集したところ50名まで増えまして

伊藤：

スポーツの部活でも50人ってなかなか部員いないですよ

顧問：

そうですね

伊藤：

生徒さんたちのサークルの経験をどのように活かしてほしいですか？

顧問：

サークルの中ではマネージメントというのをしっかりやるように日頃から言っておきまして、人、物、お金というあたりの管理をしっかりとできる人材になってもらって、一般企業に入りましてもそういったものに役立ててほしいなと思います。

### ナレーション

こうしたeスポーツが楽しめるカフェが吹田市内でも営業していて、イベントなどを通じて、子供から高齢者の方まで情報交換したり仲間づくりをしたり楽しんでいるんですよ。

さらに市内のゲームメーカー株式会社SNKでは国内外のeスポーツイベントを支援する「eスポーツサポートプログラム」を実施して、世界中でeスポーツを楽しめる環境づくりをバックアップしています。

伊藤：

今回ご紹介した新スポーツ

どちらも奥が深いな～って感じたんですが気軽に楽しめますし、共通の友達もできて楽しいと思います。

皆さんも是非初めてみてはいかがでしょうか？

田村：  
すごいですね。

藤井：  
田村さん、詳しくそうですね。

田村：  
すごいですよ、今、eスポーツ。  
吉本にもeスポーツのチームできてますし、こないだも何かの大会で  
携帯のアプリゲームの大会で1億獲った人いるんですよ。

藤井：  
へえー！吉本の中に。

田村：  
「ホームレス中学生」であれだけお金を稼いだって言われてるけど、  
正味1億なんですよ、手元に入ったのは。一緒ですからね、その人と。

藤井：  
はあー！

田村：  
あれだけ「売れた！」って言われてるのに、eスポーツは一発。  
めちゃくちゃ盛り上がるんですよ、eスポーツの大会。  
めちゃくちゃ盛り上がります。

藤井：  
後ろで見て盛り上がるんですか？

田村：  
お客さんが見やすいようにモニターがいっぱい付いてて、  
それこそ家で観ればいいのに、会場で集まって観るんですけど、  
めちゃくちゃ盛り上がります。格闘ゲームとかすごいですよ。

藤井：  
体格とか関係なさそうですね。

田村：

差がないんですよ。センスはあるんですけど、練習でみんな出来るので。運動能力は要りませんから。

平等といえば平等な、一番新しい良いスポーツかもしれませんね。

eスポーツじゃなくて「良い」スポーツかもしれない。

競い合えるという意味では。誰でも出来るから。

藤井：

クライミングも詳しくそうでしたよね。

田村：

クライミングは全然。

ボルダリングのゲームを作ってもらえないですか、SNKさんに。

藤井：

あ、そうですね。

田村：

「サムライスピリッツ」のキャラクターが刀を背負って壁を登っていただくの、謎のゲームを作ってもらいましょう。

藤井：

今回は吹田でも体験できる新スポーツについてご紹介しました。

VTR\_ワンポイント手話（60秒）

## 吹田の自由研究

田村：

続いてはこのコーナー「吹田の自由研究」

藤井：

このコーナーでは、田村さんが毎回あるテーマに沿って、「吹田」の街を自由研究していくコーナーです。

田村：

今回も「吹田愛」がいっぱいの私が吹田市にまつわる様々な事柄をチョイスして調べてまいりましたので、勉強していただきます。

藤井：

よろしくお願いします。

田村：

さあ、今日はこちらです！こちらは何でしょうか？

藤井：

お店の前でニッコリしてる田村さん。

田村：

こちらに吹田に関するある物が販売されているという事で行ってきました。何だと思えますか？

藤井：

ワインとか見えてますよね？

田村：

ということは？

藤井：

お酒！

田村：

そうです！なんとこちら、見てください！

藤井：

「吹田のソウ」、吹田でお酒作ってるんですか？

田村：

そうなんです。なんと「吹田のソウ」という日本酒を作ってまして、イラストが可愛いんですけど、でも疑問が出てきませんか？

藤井：

なんで、吹田で「ソウ」なんですか？動物園なんてありましたっけ？

田村：

素晴らしい！ありがとうございます。

そもそも酒蔵があるわけでもない、お米が特産でもない地域でなんでお酒作るねんって話で、さらに「ソウ」って何で？という、日本酒って何で？という、いろいろ「何で？」がつきまとうお酒なんですけど、その疑問に答えてもらったのが、こちらこのお酒をプロデュースした木下靖雄（きのした・やすお）さんです。なぜ「ソウ」なのか、教えてもらいました。モデルとなっているのは「アケボノソウ」という250～260万年前に生息していた日本固有のソウで吹田市内でアケボノソウの化石がいろんなところで発見されているんですよ。

藤井：

いろんなところで？

田村：

吹田市にアケボノソウが生息していたということは間違いないといわれておりまして、1個だけ出たとかじゃないんですよ。何ヶ所でも出てるので、250～260万年前に吹田にはソウがいたんですよ。

藤井：

そうなんです。じゃあ、ツノとか骨とかの化石が出てきたんですか？

田村：

そうなんですよ。

それで、木下さんの散歩コースに、アケボノソウが発見された案内板があって、「吹田にソウがいたんや！すごいな！」ってびっくりされて、「じゃあ、せっかくやからそれを広めよう」ということで、何か出来へんか？自分は酒屋さんです。じゃあ、お酒作っちゃおうという。

藤井：

すごい！

田村：

すごい行動力のある方なんですよ。

藤井：

「SUITA ELEPHANT」って書いてるTシャツ着ていらっしゃる。

田村：

そうそう！ありがとうございます！よくぞお気づきで。

「吹田のソウ」って書いてあるんですよ。

無理矢理、英語にしてるんですよ。

藤井：

すごい広めようとしていらっしゃるんですね。

田村：

そうなんです。木下さん、吹田大好きなんですよ。我々と一緒に。

吹田が大好きで、せっかくやから自分が酒屋さんやってて、

吹田の材料で出来たお酒は作られへんかなと。

吹田市内でお米を作ってる農家さんをお願いをして材料をいただいて。

藤井：

ちゃんと吹田のお米を使って作られてるんですね。

田村：

ちゃんと吹田のお米を使ってるし、お酒として山形で作ってもらってるし  
すべてがちゃんとしてるんですよ。僕、飲まさせていただきました。

なんと「吹田のソウ」、シンプルにむちゃくちゃ旨いです。

ちょっとふざけてるっぽいじゃないですか？

「なんや！吹田のソウって！」って感じで。

藤井：

イラストも可愛いしね。

田村：

真面目に作ってなさそうでしょ？ シンプルに味がむちゃくちゃ旨いから、  
すでにこの「吹田のソウ」に「吹田を応援したい」とか、「吹田にソウが  
いたんだ」とか全然関係なしに、味でファンになります。

藤井：

吹田とか関係無しに美味しいから買おうって

田村：

珍しい物あるなと思って飲んでみたら旨いやないかい！ということでこれは気に入った！ということで、シンプルにもうファンがついてまして物によっては、すぐに売り切れます。

藤井：

甘口とか辛口とかでいうと。

田村：

ちょっと辛口やけど、棘のない辛口なんですよ。  
すごくフルーティーでマイルドやけど、コクがあってパンチがあるという。

藤井：

旨味とかもあるんですね。

田村：

めちゃくちゃあります。

藤井：

うわー、良いなー。日本酒、大好きなんですよ。

田村：

あーもう絶対喜びます！

藤井：

飲みたい。

田村：

ないですよ。

藤井：

あとでスタジオに出てくるパターンとか。

田村：

いやいや。そんなんするんやったら、このフリップ芸してないですよ。

藤井：

ないんですか？

田村：

一切、現物は用意しないという。写真で消化するというのが、私の自由研究コーナーのテーマです。

藤井：

自分だけ楽しんでるっていう写真なんですね。

田村：

もしよければ、2週間前くらいですけど、飲んだ僕の吐息でよければ今ここで…。

藤井：

残ってます？ 分からない。

田村：

胃の中には残ってないかもしれないですけど。ちょうど取材に行ったこの日に「吹田のソウ」のお米を作っている農家の方に木下さんがお酒を持って挨拶にいかれるということで、僕も一緒に行ってきました。

藤井：

「出来ました」という報告に？

田村：

こちらでございます。お酒を渡してますね。見てください、この顔。

藤井：

嬉しそう。田村さんだけ真顔で見守ってる。

田村：

何に付き合わされるんやろうなってね。  
この方がお米を作っている吉田俊之（よしだ・としゆき）さん。  
田んぼは朝日ヶ丘にあるということで、田んぼを見せてもらいました。  
畑も大事に手入れされてお米を育ててるのも分かりますし、  
お酒がどれだけ好きかっていうのも、よく分かります。

藤井：

そうですね。

田村さん：

毎年、出来上がりを楽しみにされています。  
この「吹田のソウ」なんですけど、現在「吹田のソウ」シリーズは  
3種類出ております。

藤井：

これ、全部純米なんですね。

田村：

そうですよ。

藤井：

私、日本酒大好きなんですけど、純米が大好きで。

田村：

じゃあ、これ一撃でファンになりますよ。むちゃくちゃ旨いから。

藤井：

お米の味がストレートに分かるのは純米ですもんね。

田村：

ホンマに好きなんやな。そこまで好きやとは思ってなかったわ。

藤井：

酒蔵巡りとかするくらい好きなんですよ。

田村：

マジですか！えー、そうなんや。

藤井：

しかも、普通の純米もあって、純米吟醸もあって、純米大吟醸もある。  
酒屋さんが作ってるから、本気なんですね。

田村：

そりゃそうです。

藤井：

うわ、行きたい！この後、買いに行きたい！

田村：

ノリで悪ふざけでやってるんじゃないんですよ。

めちゃくちゃちゃんとやってるんですよ。

いかにちゃんとやってるかという、今年行われたG20サミットで

「吹田のソウ」が提供されたんですよ。

阿部総理やトランプ大統領、習近平国家主席などが飲んでるかもしれない。

藤井：

すごいですね。できたばかりなのに。

田村：

裏どりはしていません。口にしたかもしれない。

藤井：

でもG20で提供されたのは事実なんですよ。

田村：

もちろん事実やし、日本酒というのは世界から注目されてますから。

藤井：

「SAKE」ですもんね。

田村：

いろんな国の方が飲んだんじゃないかという。

藤井：

すごいですね。

田村：

こんなにすごい方が吹田にいらっしゃるということで、

吹田で働いている方で世界を意識して働いてる方がいらっしゃいますので、

みんなでどんどん吹田のブランド力を上げていきたいと思いますということで

以上、吹田の自由研究でございました。

皆さんも「吹田のソウ」ぜひ飲んでみて、プレゼントとか、いろんなものに  
使ってみてはいかがでしょう？

以上、吹田の自由研究でした。

スタジオ

田村：

続いては吹田の街で行われた出来事などをご紹介します「吹田のトピックス」です。

藤井：

今回は9月に行われた2つの話題をお届けします。

ナレーション・(藤井)

9月28日、パナソニックスタジアム吹田で「千里メディカルラリー」が開催されました。

これは、大阪府済生会千里病院が主催する救急医療の技能コンテストで、今回は救命救急センターやJICAの医療チームなど全国から20チームが参加しました。

医師・看護師・救急救命士を含む6人が一チームとして出場し、用意された7つの模擬現場を順番に回り、時間内にどれくらいの確に治療できるかを競いました。

こちらの現場では、トイレ内で意識を失った高齢女性の救助対応中に、夫の意識が低下するというシナリオ。

また、こちらは工事現場でガス爆発がおこり、複数の負傷者がいる中、消防と連携して対応するというシナリオでした。

そして競技終了後には、シナリオの説明がおこなわれたり、模擬患者役のスタッフから印象の良かった対応が紹介されるなど、参加者の技術向上を図っていました。

## ナレーション

10月5日と6日の二日間、イズミヤ千里丘店で「吹田ええもんフェスタ」が開催されました。

これは、障がい者の就労と自立を目ざし、授産製品を知り、理解を深めてもらうことを目的に、市内の障がい者作業所で作られた製品を1箇所に集めて、共同で販売しようといわれているものです。

会場には、コーヒー染めや手編みで作られた日用品をはじめ、紙すき製品やかわいいアクセサリなどの小物などが並び、会場を訪れた人たちは熱心に製品を見てまわっていました。

また、パンやクッキーなども販売。特に複数の施設が共同で作ったクッキー「すいたんのおやつ」は大人気。「すいたん」も応援に駆けつけるなど、「吹田ええもんフェスタ」はたくさんの人で賑わっていました。

## インタビュー

男性：

カステラとかクッキーとかを中心に買いました。

女性：

心のこもった商品がたくさん置いてあるので、いいかなあと思っています。

男性：

毎年ここは、いろんな物が出て楽しみにしています。こういうお店屋さんが協力して頂いて、それが長いこと続いているっていうのが、本当に喜ばしいことだというふうに思っています。

## 吹田ええもんフェスタ実行委員長 下郡 竜太郎さん

「今年も楽しみにしてたよ」って声とか、そういったのも聞かれるようになってきましたし、地域の中にこういった形のイベントとして定着してきたなという印象があります。市民の皆さんと障害を持った方が共に暮らしていける共生社会っていうのを、これから僕たちも作っていきたいなと、このイベントもそのきっかけにしていけたらなと思っていますのでまたこれからもよろしくお願いします。

田村：

なるほど、素晴らしいですね。

藤井：

可愛いブックカバーとかありましたね。

田村：

いろいろバラエティに富んでましたから、見てるだけでも楽しそうですね。

藤井：

そして、千里メディカルラリーなんですが、今年で18回目。

田村：

18回もやってるんや。

藤井：

日本最大規模ということですよ。

田村：

日々の訓練のおかげで安全が向上してるということで、安心です。

藤井：

以上、「吹田のトピックス」でした。

田村：

はい、エンディングでございます。色んな秋情報満載でお送りしました。  
何かありますか？秋の好きなこと。

藤井：

秋は「味覚の秋」で、栗きんとんが大好きなんですよ。

田村：

俺、茄子が好きですわ。最近、茄子好きやわー。

藤井：

どうやって食べるんですか？ 焼いて食べたりとか？

田村：

旨いですね、焼くだけでね。ショウガと大根おろしとね、ポン酢でね。

藤井：

皆さんも、秋、短いですから、楽しみましょう。

田村：

おっさんとおばはんのエンディングを。

藤井：

日本酒飲みたくなりましたよ。今の会話で。  
結局そこに行っちゃうっていう。

田村：

今日はそこやね。「日本酒の秋」ということで。

藤井：

いろんな秋が出てきました。

田村：

ということでございます。

藤井：

それではまた次回お会いしましょう。さようなら。

田村：

さようなら。